「クルーズセミナー」を開催
～寄港地に選ばれる港湾を目指す～

令和６年２月１５日（木）、ホテルポールスター札幌（メヌエット）において、北海道クルーズ振興協議会及び北海道共催の「クルーズセミナー」を開催しました。

講師に日本国際クルーズ協議会　副会長である糸川　雄介氏を迎え「寄港地に選ばれる港湾を目指して　～海外船社から見た北海道～」と題して講演をいただきました。

冒頭、協議会会長である北海道運輸局　川路次長から「新型コロナウイルスの５類への移行を経て、コロナ禍からの脱却、経済活動の正常化が進み、国内外のクルーズ船が本格的に運航を再開、北海道へのクルーズ船寄港隻数が過去３番目の１２１隻を記録する等、「第２のクルーズ元年」として目覚ましい回復を見せた１年だった」との挨拶がありました。

講演の内容としては、①世界市場とアジア市場について、②外国船の属性、③今後外国船を日本（北海道）に配船させるためには、④ラグジュアリークラスのお客様像、⑤2023 年日本発着、⑥北海道への寄港に向けて　の６点について講演をいただきました。

特に「北海道への寄港に向けて」については、「アラスカは世界３大クルーズエリアであり、オーストラリア、ニュージーランドエリアでのクルーズからアラスカエリアに移動する際、北海道への寄港が絶対的にあります。また、クルーズ船の寄港は地元への経済効果も波及してくるため、行政、他業種の方々が広域的に連携し複数のコンテンツの組み合わせを積み上げていくことが大事」とのお話がありました。

今後も、このようなセミナーなどを通じ、クルーズ振興に努めるとともに、北海道の各港に多くの客船が寄港することを願っています。

北海道クルーズ振興協議会川路会長挨拶

日本国際クルーズ協議会　糸川副会長による講演